

《キーワード》 口腔病理学、口腔病理専門医、病理診断

《担当者名》 安彦 善裕

【概要】

病理検査は、摘出病変をもとに病名や病期の最終診断を下すのみならず、治療方針の決定、治療効果や予後の判定など、良質の歯科医療を提供するために不可欠な、情報を提供する重要な役割を担っている。種々の歯科医療の現場で、細胞診、生検、術中迅速診断、手術材料の病理診断、病理解剖などを担当しているのが、口腔病理専門医である。2008年4月からは『病理診断科』が標榜科として認められるなど、病理診断の必要性はより高まっている。

本コースでは、口腔病理診断に必要な、知識・技術を取得し、臨床に即した優秀な口腔病理専門医を育成することを目標とする。

【学修目標】

1. 口腔領域に生じる様々な病態について、病理総論を基に理解、解説することができる。
2. 全身疾患関連病変について、十分な知識を身につける。
3. 病理診断に必要な各種の標本作製法を理解し、習得する。
4. 診断に必要な各種染色法の理論と応用目的を理解する。
5. 病理解剖の知識と技術の習得する（病理解剖資格の習得）。

上記を基に、臨床側が必要とする良質の病理情報を提供できる診断能力を身につけることを最終目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	一般病理学ゼミ	病理診断に必要な基礎的事項など	
2	口腔病理学ゼミ	歯原性疾患、口腔特有疾患など	
3	標本作製及び病理診断に必要な、各種検査法の理論と技術の習得実習	1) 細胞診（採取法、固定法、各種染色法及び標本観察の基本） 2) 組織診（検体処理、切り出し、標本作製及びHE染色法、標本観察） 3) 凍結標本と電子顕微鏡標本（検体処理、標本作製及び染色法） 4) 各種特殊染色及び免疫組織染色（目的、理論と基本的手技及び評価法）	
4	既往症例なども用いた病理診断及び報告書作成実習		
5	関連病院などでの病理解剖実習		
	上記1～5などを実施し、専門的な口腔病理診断の理論と技術を習得する。		

【評価方法】

出席状況、実習レポート、診断レポートなどで評価する。

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

事前に提示した到達目標について、病理学の教科書及び文献等を用いて予習しておくこと。